

突然ムクドリ

僕ら夫婦は、バードウォッチングを共通の趣味にして、四十数年になる。昔はしばしば山行して楽しんでいたが、今はコロナで閉じ籠るようになった所為もあるが、とても山行などできる体力は無い。

精々、ベランダ越しに見える街路樹などにやってくる小鳥たちに気付いて、沸き立つ程度である。

先日のことだった。

ちょっとしたすれ違いのやりとりか何かで、僕は気分を壊して、黙り込んだ。

僕から言わせると、妻には少々微妙に疎いところがあって、僕のナイーブな心が傷ついていたのだ。

丸テーブルの隣同士でお互いの趣味に打ち込む二人の間に、冷やかな空気が漂って、いわゆる気まずい時間が経過した。

しばらくして、妻が絶妙なひとことを放った。

「今、ムクドリ？」

ムクドリとは、野鳥の椋鳥のことである。東アジアに生息、その辺の市街地でも普通に見られる留鳥。ここでは、むくれていることに引っ掛けた。

そのひとことで、僕の笑い袋にスイッチが入ってしまって、

「そう！ 普段おしどり、突然ムクドリ」

おしどりは、東アジアに生息する水鳥で、わずかな距離を移動する漂鳥。

なお、「おしどり夫婦」と言われるのは、一緒に居る様子が仲睦まじいから言われるようになったからで、実際は子供が生まれるとさっさと他の雌の後を追うという。

.....

箸置きとナポレオン

新聞を読む僕の視界の端っこで、しばらく前から妻がせっせと何かをこすっている。その執拗な様子が気になって、新聞越しに何してんの？と聞くと、父さん（僕のこと）の箸置きを磨いてんのよ、という。確かに大分前から、毎食僕がお世話になっている緑色の枝豆を模した鉄製の箸置き、その表面に黒く変色したような汚れが目立つようにな

って気になっていた。

ありがとうと云いながら、朝日新聞掲載の「ナポレオン、英雄の素顔は」と題した作家ふたり（佐藤賢一氏、井上章一氏）の対談を読んでいたが、どことなくあいに磨かれているのかも気になって、新聞越しに、どう？と妻の手元を覗き込むも、執拗に磨いている割には汚れが落ちていないように見える。

それ、汚れが着いたのでなく、塗りが剥がれているんじゃない？と云いながら、眼を新聞に戻すが、その内容は大したことでない。ただナポレオンが禿げ頭であったことにはびっくりし、同時に僕は密かな親近感を持ったが、対談はその話を導入にしてファッションやイタリア人気質や文化を語り合ったものであった。

やがて、箸置きを磨いていた妻が、父さんのだからしょうがないや、と突き放すように云ってのけた。何のことかと思いきや、汚れでなく塗料の剥がれを僕の頭にみためて、にっと揶揄しているのだ。この～っと云ったものの、怒るよりびっくりしたのは、僕が読んでいる新聞の内容「ナポレオンの頭は・・・だった」とは妻はまるで知らないのである。奇妙なタイミングに苦笑するばかりであった。